

出張報告書

下 関 市 議 会 議 長 殿

令和元年12月6日

職氏名 議会運営委員会 委員長 前 東 直 樹 副委員長 星 出 恒 夫 委員 山 下 隆 夫 委員 田 中 義 一 委員 安 岡 克 昌 委員 片 山 房 一 委員 井 川 典 子 委員 板 谷 正 委員 阪 本 祐 季 担当書記 花 谷 禎 久 担当書記 本 田 知 徳	用 務 (1) タブレット端末を使用した防災訓練について (2) 議会報告会の取り組みについて (3) 議会ICTについて (4) 議会見学会・意見交換会の取り組みについて
期 間 令和元年10月 8日から 令和元年10月10日まで	出張先 栃木県大田原市 (1) (2) 千葉県船橋市 (3) (4)

概 要

【栃木県大田原市 人口：71,908人 議員定数：26名】

大田原市は栃木県の北東部、関東平野のはじまりである「那須野原」に位置する。かつては奥州街道の宿場町として栄え、那須与一ゆかりの地としても知られている。

平成17年10月に旧大田原市と湯津上村、黒羽町が合併し、現在の大田原市となる。近年では、交通体系の整備につれて田園工業都市となり、企業誘致も進められている。

出席者：君島 孝明 副議長、高瀬 重嗣 議員、星 雅人 議員
宇津野 議会事務局 係長 ほか

視察の冒頭に君島副議長より歓迎のあいさつを受け、前東委員長の答礼ののち、(1)について、高瀬議員及び星議員より説明がなされた。説明後に質疑応答を行い、引き続き(2)について、議会事務局の宇津野係長より説明。その後、高瀬議員及び星議員同席にて質疑応答が行われた。質疑終了後、議場の見学を行った。

(1) タブレット端末を使用した防災訓練について

・大田原市では、市長からのトップダウンにより、タブレット端末を使用したペー

パレス会議を推進することとなり、まず、平成26年6月に執行部がタブレット端末を導入、その後、市長から同年9月定例会から議場にタブレット端末を持ち込みたいとの申出があり、市議会はこれを認めることとした。

- ・執行部側のタブレット端末導入をきっかけに、市議会でも導入の協議がなされ、執行部からは、インターネット回線を利用してオンラインで使用する許可がほしいとの話があり、導入をするからには市議会も執行部と足並みを揃えたいとの意見があり、平成26年12月定例会に補正予算を組み、導入を決定した。
- ・タブレットはアップル社製のiPad Air2 32GBセルラーモデルを31台導入し、契約金額は本体価格・初期設定・2年間の通信費込で約240万円であった。また議員へは貸与としているが庁舎外への持ち出しは可、改選時に返却してもらい、中のデータを全て消去して、また4年間貸し出すという形をとっている。
- ・会議システムは、日立システムズの「スマートセッション」を導入している。初期費用は約46万円、月額約9万7千円である。
- ・グループウェアは、Google社の「G Suite」（ベーシックプラン）を採用している。
- ・会議システムは、議員、執行部全てのタブレットを同期させて使用しているとのことである。
- ・災害時の情報収集や伝達訓練を、タブレット端末導入後の平成27年8月に実施した。居住地周辺で災害が発生したと想定し、各議員の参集にあわせて、タブレットの位置情報機能を活用して現場の写真を撮影し、本部（市役所）へ送信。送信後に本部へ参集するものであった。
- ・現地との中継訓練として、アップル社の「FaceTime」アプリを活用して生中継を行い、本部では、現地の映像をスクリーンに投影し、リアルタイムで確認を行った。
- ・タブレット端末導入の効果として、コピー用紙の削減により、年間約29万円、その他郵送代や資料作成に係る人件費等を含めると、年間約213万円の経費削減ができると試算をしているとのことである。

(質疑)

問 災害時の情報伝達に位置情報機能を活用しているとのことだが、位置情報機能は常時オン状態なのか、緊急時のみか。

答 撮影した写真の中に位置情報を埋め込むことを許可するかどうかというところで位置情報機能を使っているのだから、常時オンにしているわけではない。

問 グループウェアについて、「G Suite」を導入することで、使用したい機能は網羅しているのか。

答 そうである。まだそれほど進んではないが、例えば、ある行事の参加について

確認するときに、出席、欠席のみならず、返事をしていない人なども一目でわかるようになったというようなことがある。

問 会議用システムの「スマートセッション」は、自宅にあるPCからでも閲覧できるのか。

答 パスワードを入力することで、自宅のPCからでも閲覧が可能である。

問 「スマートセッション」に入っている資料は、会議中は同期させているとのことであるが、どのようなメリットがあるか。

答 画面表示を同期することで、ページを自動的にめくってくれるので、端末の操作が苦手な議員にとっては大きなメリットである。なお、今年から新庁舎になったが、各議席にはモニターが付いており、そのモニターに同期させた資料を表示させることとなったため、各自のタブレットでは自分で見たいものがみれるようになったとのことである。

問 議場で質問を行う際に、タブレットを使って参考資料の投影は行っているか。

答 行っていない。ただ、議場に持ち込んだパネルのデータをタブレットに入れて、全議員と職員で見えるようにすることはしている。

問 「スマートセッション」を導入した決め手は何か。

答 資料の同期機能があるかないかである。

問 Googleドライブで共有される資料は、写真以外に通常の議会での書類も対象としているのか。

答 全議員共有フォルダというのがあり、定例会や臨時会の資料、執行部からの情報提供などを入れている。議員の活動にとっても役立っている。

(2) 議会報告会の取り組みについて

- ・平成27年に大田原市議会基本条例が制定されたことをきっかけに、平成28年度から開始している。内容は、定例会及び臨時会の概要報告、市民との意見交換、その他議長が必要と認める事項である。
- ・平成28年度の第1回目は、第1部で各常任委員会からの報告、第2部で「交通機関について」という共通のテーマを設け、市民と車座になって意見交換を行い、所管の委員会で執行部との調整や勉強会等を経たのちに、最終的には執行部に報告書として提出をするというものであった。
- ・平成29年度の第2回目の報告会では、第1回目の報告会で、定例会や臨時会の報告内容が難しいとの意見があったため、第1回目の報告会で一部の委員会で行った行政視察の報告を第1部として行い、第2部として、テーマを決めないフリートークを行う形とした。
- ・平成30年度の第3回目の報告会では、第1部で平成29年度と同様に各常任委

- 員会の行政視察の報告を行い、第2部でフリートークの形で意見交換会を行った。
- ・平成31年度の議会報告会については、平成31年1月から新庁舎での執務が開始されたことから、第1部で議会フロアの見学会を行い、第2部では、市民の方から専門的な意見をいただきたいという議員からの意見により、常任委員会ごとに意見聴取を行ったとのことである。
 - ・平成31年度に行った各常任委員会の意見交換会は、総務常任委員会が女性団体連絡協議会との意見交換、民生常任委員会がシルバー人材センターで活躍している方や地域包括支援センターで働く方との意見交換、建設産業常任委員会が観光協会の方との意見交換、文教常任委員会が小中学校の校長との意見交換というように、専門的な意見交換を行ったとのことである。
 - ・議会報告会への参加者は、平成28年度の第1回目が145名、平成29年度の第2回が87名、平成30年度の第3回が100名、令和元年度が85名であったとのことである。
 - ・今年は新庁舎になりセキュリティの問題から、開催が平日の日中となり、参加できる市民の方がかなり限られることとなった。まだ、事務局とも雑談のレベルだが、例えば市政報告会ということであれば、土日に市民が集まるイベントなんかで市議会としてブースを出して、来る方の意見を聴くのもどうかという意見もあり、今後の課題と思っているとのことであった。

(質疑)

問 車座になって、フリートークでは幅広い意見が出てきて集約するのが大変だと思うが、そのあたりの考え方は。

答 フリートークということで、出だしの意見が良いものであれば、その後の雰囲気は明るい方向になるというのを感じている。中には厳しい意見も出て、大変な時もあるが、何かしら意見を持って参加していると思うので、そういうのをうまく利用しながら意見が活発に出るようにしている。

問 車座になっているときの議員の立場や役割は。

答 求められたら意見を言うときもあるが、基本的には議員は意見を主張しないようにしている。説明を求められれば、分かる範囲で説明もする。どちらかというところ聞き手、意見を回す役割が主である。

役割としては、話の輪に加わる議員が2人、記録をとる議員が2人という体制である。記録をとる議員にも、その場の空気を読んで議論に加わってもらっている。

問 出た意見についてはどのようにしているのか。

答 報告書を作成し、ホームページに出すとともに、市長へ提出するという形をとっている。

問 フリートークでは、傍聴に来た一般の方も車座に入ることができるのか。

答 基本的には市民には車座に入っただけの形をとっている。

問 高校や大学、小中学校などでの実施というのはあるか。

答 子ども議会は平成26年ごろに一度実施したが、議会として議会の活動を知ってもらうのとは違う内容であった。高校生向けのものについては、話題にはなっているのですが、今後実施する可能性があるが、日程調整が難しく、1年以上前から押さえておかななくてはならないというところである。

問 学校の校長との意見交換会を行ったとあったが、市内全部の校長が対象か。

答 そうである。月に1回行われている校長会に出向いて行った。

問 校長によってはそういうものにアレルギーがある方もいると思うがどうか。

答 そのようなものはなく、皆さんと積極的に意見交換ができた。市外での勤務をされた方もいるので、そのような視点で意見をいただくこともできた。

問 各常任委員会で各種団体と意見交換をするにあたり、少数でも現場の人に専門的な意見をもらったほうがいいのか、多数の人を呼ぶほうがいいのか。

答 専門家の意見も貴重であるし、一般市民の意見も貴重であるので、どちらがいいかというのは一概には言えないところである。やってみて、失敗したら、次にどうするかを繰り返しているところである。

問 市民5分間演説というものを行っているそうだが、位置づけ的にどういうものか。

答 委員会の開始前に5分間、意見を述べてもらうものであり、市民であれば誰でも演説できるものである。これまで4～5人がこの制度を使って演説している。

問 演説内容は議事録には残るのか。

答 議事録には残らない。

問 演説内容に対して答弁はしているのか。

答 答弁はしていない。



【君島副議長（画面奥）より挨拶を受ける】



【議場にて】

【千葉県船橋市 人口：635,517人 議員定数：50名】

船橋市は、東京湾奥の中心部に位置する県下第2の都市で、江戸時代には交通の要衝で宿場町として栄えた。2017年「買って住みたい街ランキング」首都圏版で1位を獲得するように、都心から30分圏内という利便性と豊かな自然など生活しやすい環境から、発展を続けている都市である。

出席者：日色健人 議長

議会事務局 大澤次長、高橋課長補佐 ほか

船橋市議会の日色議長より歓迎のあいさつを受け、前東委員長の答礼ののち、(3)議会ICTについて議会事務局の大澤次長から、(4)議会見学会・意見交換会の取り組みについて高橋庶務課長補佐より、それぞれ説明を受けた。

(3) 議会ICTについて

- ・船橋市議会では、平成27年にタブレット導入の議論を開始し、先進地視察等を経て、平成30年2月に本格運用を開始している。
- ・タブレット端末は公費による導入で、100台導入し、議会側59台(議員50、事務局・予備9)、執行部41(執行部36台、議場出席者2台、会議室・予備3台)という内訳になっている。
- ・タブレット端末導入にあわせて、議会フロアがある庁舎10階をはじめ、市長室等がある9階と、議会図書室がある11階にWi-Fi環境を整備した。
- ・会議システムは、東京インタープレイ社の「サイドボックス」を導入している。サイドボックスに格納したPDFデータは、議員、執行部ともに閲覧可能である。
- ・一度、紙資料を全廃したが、議員からの強い要望で併用することとなった。
- ・議場及び委員会室にて、議員、執行部、議会事務局が使用するタブレット間において、一斉又は個別に必要なメッセージが送受信できる通信システム「WowTalk(ワウトーク)」を導入している。議員間はもとより、議会事務局と議員間、また理事者同士でのやりとりなどに活用されている。
- ・経費については、執行部との案分であるが、5年間で約3,000万円かかったとのことである。

(質疑)

問 タブレット端末等について、議員への研修は定期的に行っているか。

答 タブレット端末導入時には全議員向けの研修を行ったが、改選後は新人議員に

ついでのみ、事務局の職員が講師となって研修をした。

問 サイドブックの資料については、執行部も同期しているのか。

答 執行部側は部長職しかタブレット端末を持っていない。委員会などでは部長より課長が説明をすることから、その部分ではなかなかできていない状況である。

問 何故Wi-Fiモデルを導入したのか。

答 通信費の関係で、議員の方と市の費用分担の折り合いがつかないだろうという見込みがあり、通信費のかからないWi-Fiモデルとした。次の更新のときは、経費負担の話がつけば、セルラーモデルになるのかもしれない。

問 議会のタブレットは持ち出しが可能か。

答 可能にしている。

問 プリンターとの接続もしているのか。

答 会派のプリンターとは接続していない。この部分が弱点である。後追いで、事務局にある複合機に接続できるようにして、プリントアウトしてもらっている。

問 緊急時の連絡などでの「WowTalk」の活用はあるか。

答 以前は議員個人のアドレスにメールを送信していたが、グループウェアを導入する際に公的なアドレスを付与することとなったため、「WowTalk」よりも公的なアドレスのほうに連絡をしているといった運用をしている。BCPの話になると、まだ先になるのではないかというところである。

問 グループウェアは何を導入しているのか。

答 サイボウズ社の「ガルーン」である。

問 「ガルーン」にした決め手は何か。

答 災害時に有効なグループウェアを検討する中で、マイクロソフト社のものと比較検討したが、初心者を使いやすいことや、最初の画面からいろんな画面にアクセスでき、またiosにも対応しているといった点から「ガルーン」を選んだ。

問 「WowTalk」を使って、執行部と議員で連絡を行っているか。

答 本会議中に連絡を取られると堪らないということで、執行部側からの申出により、議員との連絡は遮断している。

問 グループウェアの導入費用は。

答 この10月からの導入ということで、今年が初年度であるが、構築費として、ソフトの費用にトップ画面の設定や研修費用等を加えて約220万円かかっている。ランニングコストとしては、初年度として290万円かかっている。来年度以降は年間240万円かかる見込みである。なお、これはグループウェアだけでなく、ワード、エクセルの利用料も含まれている。

(4) 議会見学会・意見交換会の取り組みについて

- ・平成23年度の春休みに一度、議会見学会を行ったが、参加人数が非常に少なかった。その後、回を重ねるごとに参加人数が増えているとのことである。
- ・平成28年から、18歳選挙権が始まったこともあり、高校生も加えるようになったが、初年度は参加者がゼロであった。その後、中学生を加え、中高生と一緒にやったところ、徐々に増えており今年は中学生17名、高校生15名の参加者があった。
- ・小学生議会見学会は、過去に千葉県民の日である6月15日に実施したこともあったが、現在は夏休み期間中に行う形で落ち着いているとのことである。
- ・夏休み期間中に行うことで、参加者が伸びたとのことである。要因としては、保護者も一緒に来やすいといった面や、夏休みの自由研究としての参加、普段は入れないような施設も見ることができるといえることが大きい。
- ・当日は、「市議会施設見学」と、「議員とのお話し会」を行っており、小学生は市内在住の3年生から6年生まで、中高生議会見学会・意見交換会は、中学、高校ともに1年から3年までが対象である。なお、小学生は保護者が同伴しているのでかなりの人数になるとのことである。
- ・学校へのPRについては、議員が直接訪問してポスターやチラシを配布し、説明をするということである。
- ・アンケートをとると、議員と話をすることで距離が縮まったとか、勉強になったといった肯定的な感想が多く、毎年参加するリピーターも多くいるとのことである。
- ・今後は、高校生への出前議会のような形も考えているとのことである。

(質疑)

問 小学生の参加者について、学年別の内訳を教えてください。

答 2日間で、3年生が25人、4年生が26人、5年生が27人、6年生が13人である。兄弟での参加やリピーターもいる。

問 リピーターもいるのはなぜか。

答 記念グッズを渡しているのもあるが、違う議員と話ができるといったことや、夏の1つの定例のイベントとして保護者にも認知されているのかというような感じがしている。

問 議会独自で子ども議会というようなものは考えていないのか。

答 執行部側で4年に1度子ども議会を行っている。子供たちがある程度時間をかけて質問を考えて、それを市長に質問する、議会はその場所を貸しているだけであるが、本来それは議会側でやるべきではないかという意見はある。

問 議員と事務局の役割分担はどのようにしているか。

答 事務局は資料作成や募集に関する事務などを担っており、ある種、裏方的な役割である。議員は当日の誘導であったり、子供への説明であったりなど、全てを行ってもらっている。

問 大学生を対象にすることは考えていないか。

答 そのような意見はまだ出ていない。

問 一般の方を対象としたものはないのか。

答 一般の方を対象としたものは行っていない。ただ、議会見学会に参加した子供だけでなく保護者も勉強になったということで、大人版がほしいという意見も出ているので、今後の参考としたいと考えている。

問 参加人数を上限50人としている理由は。

答 委員会室のキャパシティの関係で50人としている。小学生には保護者もついてくるので、そうなると委員会室が人でいっぱいになる状況である。



【日色議長より歓迎の挨拶を受ける】



【議場にて】